

入場無料
予約不要

2019年8月3日 (土)

BIO MIMETICS

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第92回 持続可能な社会とバイオミメティクスを考える その5 環境、農業、経済



ハスカップのつくり

ハスカップの花

ハスカップの果実

農業・農村は、食料供給に加え国土や自然環境の保全、良好な景観形成の役割を持つが、就農人口の減少により持続性確保が懸念されます。勇払原野は、縄文時代前期からひとが生活を営み、不老長寿秘薬のハスカップが自生。栽培は千歳で始まるが迫る危機。薬効・美容・健康の効用があり、莓・レモン・ブルーベリーより高栄養価でも低い活用度。ハスカップの植栽による原風景再興と、果実を活用したブランド品開発の取組みを紹介します。次に、情報通信技術・ロボット技術を活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業がスマート農業です。超省力化の農業、データ駆使の戦略的な生産、取組みやすい農業、生産と販売の連携などの実現が目的。スマート農業の市場と技術の動向、さらに千歳発スマート農園モデルをハスカップ農園への先行導入の紹介をします。重労働と勘&経験の農業の障壁を下げ、農業の魅力アップに繋がたいと考えます。

律動する世界

成安造形大学 客員教授
滋賀県立大学 名誉教授

仁連 孝昭

エコシステムは初期の成長段階から成熟段階に遷移し安定した極相（クライマックス）に至ることが教科書に書かれています。だが長い目でみると、洪水、山火事、害虫の蔓延などが必ず起こり安定したエコシステムも攪乱されそれに耐えきれなくなると新たなレジームに転換します。エコシステムと同じく多様な人々のネットワークで組織されている人間社会も生態系と同じように成長段階、成熟段階、攪乱による下降段階、そして新たなレジームの創発段階へという律動の大きなうねりから逃れられません。人間コミュニティは一直線に進行するのではなく、生物コミュニティと同じように律動するのです。そうであれば、私たちは今律動のどの段階にあるのかを認識しその段階に応じた対応をしなければならぬこととなります。持続可能な社会を考えると律動のどの段階に立っているのかを認識することが重要です。これができて初めて、生物コミュニティに蓄えられた知恵を私たちは有効に利用できます。律動する世界について一緒に考えましょう。



勇払原野の原風景再興と 新ビジネスの創出をめざして

NPO法人アグリコミュニティ千歳 理事長

藤田 和徳

主催：北海道大学総合博物館
共催：高分子学会北海道支部
北海道大学 電子科学研究所
特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会
高分子学会バイオミメティクス研究会
公立千歳科学技術大学地域連携センター

北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
問合せ先：TEL.011-706-2658 FAX.011-706-4029
E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

会場：北海道大学総合博物館 3階 北講義室(N308)
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分

